

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度RI会長

K.R.ラビンドラン



第2780地区
大磯ロータリークラブ



1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル

TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 河本 親秀

会長エレクト 百瀬 恵美子

幹事 大藤 勉

第2357 例会

平成28年1月14日 No.25

■司会：田中 敏治

■点鐘：河本 親秀

■合唱：我等の生業

◇プログラム・1月21日：事務所引越し ・1月27日：高橋 昌宏さん（バングラデシュ国際協力隊）

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2357回	17(15)	8	53.33%	—	—
2355回	17(15)	8	53.33%	—	—

◇欠席者(7名)小林、宮澤、石山、原、太田
笹尾、大藤さん

◇出席報告

◇メイクアップ(0名)

◇ゲスト紹介：

- ・グローバル財団奨学生・高谷紗帆さん
- ・米山奨学生アルウイン・スプリアント君

◇ビジター紹介：

- ・IMキャラバン：近藤陽一郎さん(平塚西)
- ・IMキャラバン：伊藤和彦さん(平塚西)
- ・坂井規久子さん(川崎百合ヶ丘)
- ・山田幹男さん(厚木県央)

◇米山奨学金手交：



アルウイン・スプリアント君：皆さん明けましておめでとうございます。昨年来、奨学金を頂くと共に色々勉強させて貰い有り難うございました。今年は去年の事を踏まえて頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

◇会長報告

河本親秀会長

昨日は寒くて、いよいよ冬到来と思っていたら、今日はまた3月中旬の陽気だそうです。日本の四季は春・夏・秋・冬の筈ですが、今年は春・夏・秋・”春”・そして冬のような感じです。もう梅は咲き、水仙も咲き春が先に来ている感じです。

先ほど井上直前幹事さんと話をしていましたら、この異常気象は大地震の前触れであるとの予言を頂きました。井上さんの予言はよく当たるので皆さんご用心を!!(笑)

今日はお客様多数お見え頂き有り難うございます。

アルウイン君は只今修士論文の最終仕上げの真っ最中で22日までに提出、29日の試験を合格すれば、目出度く修士合格になります。指導教官は博士になりなさいとのお勧めのようです。マーケティング専門ですので、日本の商社・会社でインドネシアに進出したいところがあれば、大いに役立つ人材と思いますので、ご紹介頂ければと思います。

高谷さんはグローバル財団奨学生として1年間ロンドン大学で勉強されて昨年帰ってこられました。

お元気そうで何よりです。今日はその留学の報告とそれにまつわる色々なお話を聞かせて頂き、その後皆さんと意見交換、質疑応答の時間を設けています。

IMキャラバン隊の伊藤和彦さん、近藤陽一郎さんようこそお出で下さいました。IMは2月7日に迫っています。私もそのパネルディスカッションに出る事になっており、その資料集めと整理に頑張っているところです。2011年3月11日の東日本大震災に対して「米国インターアクターの災害支援が生み出したもの」と言うのがテーマです。今年五年目に入りこのストーリーを完結するよう言われています。昨年11月にのいわきを訪問、写真も撮ってきましたが、海岸は防波堤構築工事の真っ最中で、全くの様変わりをしていました。

事務局の手塚さんが、9日に突然の体調不良で市民病院で緊急入院され4泊5日の検査を経て無事退院されました。癌ではなくて何よりよかったです。当クラブの大事な戦力です。大事にして下さい。

来週は例会後、卓話時間に事務所の引っ越しをしますので、作業できるような服装でお出で下さい。

会員増強実行委員会で昨年来準備をしていました会員候補者リストが出来ました。早急に訪問のスケジュールを作ってチームで勧誘を開始したいと考えています。皆さんのご協力をお願いします。



◇幹事報告 井上浩吉直前幹事

例会変更：寒川RC

第27回ローターアクター地区年次大会：

2月14日(日)鎌倉プリンスホテル

IMキャラバン隊がお見えになっています。後ほどお話し頂きます。

◇IMキャラバン隊：近藤、伊藤両氏より

近藤さん：今年のIMは2月7日(日)13:25より、ホテル・サンライフガーデンで開催されます。田中ガバナーは公共イメージの向上のため、マルチメディア等でよい活動を広めて影響力を保とう。そして自己が、クラブが、ローターが尊敬される存在になろう。そしてローターリーダーを市民参加の行事とし

て実践しようと提唱されています。第8グループではこれを受けて本年度のテーマを『世界でよい事をしよう』としました。そしてサブタイトルとして「認知度の向上と奉仕活動の実践」を掲げております。今回のIMはパネルディスカッションの形式をもちましてその実践の報告をして頂いて、人道的奉仕により理解を深めて頂きたいと考えています。このパネルディスカッションは平塚西、大磯、平塚湘南の3クラブから報告頂く事になっています。このIMを期に奉仕活動がより活発化し、クラブが元気になり、よい家庭の為、職場の為、社会の為に繋がる事を祈念しております。

当日は懇親会まで準備しておりますので最後まで多くの方の御参加をお願いします。



伊藤さん：懇親会アトラクションについて

沖縄の三線の奏者の松井久規さんをお招きしております。

松井さんは平塚市内、小田原市内で広く活動されています。皆さんご存じのメジャーな曲からマイナーな曲を披露して頂く予定です。最後にはお仲間と一緒に「エイサー」を練り広げさせて欲しいとのことですので皆さん是非参加頂いて楽しんで頂きたいと思います。

◇委員会報告

☆スマイルボックス

・近藤陽一郎さん：みなさん こんにちは。本日は2/7開催のIMキャラバン隊としてお伺いさせていただきました。どうぞよろしくお願ひします。

・伊藤和彦さん：平塚西ロータークラブの伊藤と申します。本日はどうぞよろしくお願ひ致します。

・山田幹男さん：メイク・アップでおじゃまいたします。宜しくお願ひ申し上げます。

・坂井規久子：よろしくお願ひ致します。

・河本親秀さん：平塚西RC近藤さん伊藤さんIMキャラバンにお出で頂き有難うございます。高谷沙帆さん今回はお忙しい中をお出でくださり有難うございます。今日はお話しよろしくお願ひします。



百瀬恵美子さん

アルウィン君ようこそ修士論文最終仕上げ頑張ってください。

・新宅文雄さん：高谷さん お久しぶりです。アルウィン君ようこそ勉強頑張ってください。IMキャラバン隊よろしくお祈りします。

・田中敏治さん：高谷さん、卓話楽しみです。宜しくお願い致します。アルウィンさんようこそ。

・百瀬恵美子さん：IMキャラバン隊の近藤さん伊藤さんようこそ。アルウィンさんようこそ。高谷沙帆さん卓話たのしみです。

◇ 卓話

◆◆◆グローバル財団奨学生留学報告◆◆◆

高谷 紗帆さん



皆さまご無沙汰しております。グローバル奨学金を頂いて2014年の秋から1年間イギリスに留学させて頂きました。報告が遅れまして申し訳ありません。

以前にも2度こちらにお伺いした時にお話したこともあります。もう一度私が入学する前にどうしていたかから始めさせて頂きます。

2008年に大学を卒業し、その後日本で内科の臨床医として働いていました。東京と横浜において6年間内科医としてトレーニングを受けました。内科の中でも感染症を専門としました。私自身が感染症という疾患自体に興味を持っていたことが大きな理由ですが、それと共に感染症というのは残酷で、弱い立場の人を容赦なく攻撃するところがあるのももう一つの理由です。具体的に言うと、免疫力が落ちてくると肺炎にかかりやすいといったことだけではなく、社会的にも経済的にも辛い立場にある人が感染症に苦しむことも多いです。難民キャンプで結核が流行したり、ワクチン接種がなされないため麻疹で子供が亡くなったりといったことです。本来は多くの感染症が治療または予防できるはずであるという点も自分にとって魅力的に思いました。

わたしの働いていた病院ではマラリアやデング熱といった日本では少ない熱帯感染症を診る機会があり、その中でもっと色々な症例を診てみたい、そしてそれが実際起きている所へ行ってみてみたいと思うようになりました。日本で6年間の臨床医としての経験の中でも、海外で感染症を学ぶチャンスがあれば参加するように努めていました。ただ、そういった研修は一ヶ月くらいのごく短期間であり、学び始めたところでその期間が終わってしまうもどかしさがありました。そのため、2013年末に日本での仕事を退職し、2014年1月から半年間、海外での医療支援に参加しました。アルメニアという、トルコの東に位置する人口300万人くらいの国に派遣されました。結核は世界三大感染症の一つで、きちんと治療すれば治すことができます。不十分で不適切な治療が行われると、効くはずの薬が効かない結核が生まれ、私はその薬剤耐性結核を扱うプロジェクトに参加しました。日本で勉強したことが役立ったことは沢山ありましたが、でもまだまだ勉強しないといけないという気持ちを強くし、その後留学しました。

留学先はLondon School of Hygiene & Tropical Medicineという大学院です。日本では「ロンドン公衆衛生熱帯医学校」と訳されます。私はそこで熱帯学を勉強する臨床医の為のコースに参加しました。熱帯医学の中で大きなトピックはマラリア、結核、HIVであり、その他多くの寄生虫、細菌、ウイルス感染症について学びました。同時に、こういった熱帯感染症を制御するために何をすべきか、ということ疫学、経済、政治といった様々な視点からも学びました。

私がこの一年間で一番多くを学んだのは、クラスメートとの勉強会です。わたしはアフリカや東南アジアから来た学生と比べて熱帯医学の臨床経験が少ないのは明らかでしたし、いくらテキストなどで読んで学んでも、手にとってという感覚ではありませんでした。そんな悩みを友人と話し合っているうちに、じゃあ勉強会をしようということになりました。それぞれが得意分野を教え合う形を取っていました。例えば、ナイジェリア人の小児科医の友人は小児の栄養失調を診療した経験が豊富でした。ガーナ人の友人はマラリアを数多く診てきていました。そういった経験を共有しました。おそらく本で学ぶ事は日本でも頑張れば出来ると思いますが、その人達が何に困ったか、それが実際どれだけ大変だったか、ということは、やはりやってみた人に聞かなければ分からないだろうと思います。



6月に最終試験が終わり、私たちは修士論文を書かなければならないのですが、私はデング熱をテーマに選びました。デング熱はアジアや南米では大きな公衆衛生上の問題です。ロンドンに留学してみて、ヨーロッパの医療支援はアフリカを向いているように感じました。地理的にも歴史的にもアフリカに近いわけですから、当然とも言えるでしょう。同時に、わたし自身がアジアから来ているからこういう風に感じるのかもしれないとも思いました。そういう思いもあり、デング熱を修士論文のテーマに選択しました。

私の学校は昨年までエボラ出血熱で大忙しでした。フィールドに行けた訳ではありませんが、感染症がいかに制御されていくのかを近くで見ることが出来たことはよい経験でした。

留學生活の中で、ふとある時に妙に感動したことがあります。わたしもそして友人たちも、それぞれが自分の国のフィールドで日々コツコツ頑張ってきて、そして留学して1年間一緒に勉強し、それぞれのフィールドに戻って、また地道に働いていくのだということです。また、途上国からの留学生にとって、留学に伴う費用負担はわたしにとってのそれとは比べ物になりません。一年間という短い時間であっても、彼らと机を並べ学んだこと、そして友人になれたことを本当にうれしく思います。

国際保健という分野は華々しく映ることもありますが、実際には一人一人の医者や様々な職種の方が出来る事を出来る所で精一杯頑張っているのだということが、この数年間の留学と勤務を通して見えてきたように思います。依然とは恰好のいいことばかりを考え、少し地に足がついていなかったのかもしれない。感染症を臨床で診ることを自分の強みだと自信を持てるよう、地道に頑張っていこうと思います。日本の医師にとって、海外で働くというのはなかなか敷居の高いことです。でも、実際やってみると、ラクではないけれど、出来ないこともないということも感できました。



留學するまで余り考えていなかったのですが、自分はアジア人なのだと強く感じるようになりました。当然ヨーロッパの学校ですので、EUの学生が多く、アフリカやアジアの国の人はいません。自分のアイデンティティを余り考えた事がなかったのですが、自分の国を離れてみて分かることがあるのだなと思いました。来年4月からは新宿にある国立国際医療研究センターでもう一度医師として働きます。せっかく海外にでたのにまた日本に戻るのかという迷いもありましたが、臨床医としてのブランクが長くなっているのもう一度一生懸命勉強しなおそうと決めました。留学で勉強したことを生かして頑張ります。アジアは熱帯感染症を始めとしてさまざまな健康問題を抱えています。日本は中でもっともっとリーダーシップを取るべきではないかと私自身思っています。その過程に少しでも関わって行ければ良いなと思います。本当に貴重な経験をさせて頂きまして有り難うございました。また4月から一生懸命働きたいと思いません。

質疑応答

- ・ 感染症予防のワクチン接種の発展途上国と先進国における受け入れ難易度：発展途上国ではワクチンを受けなければ病気にかかってしまう、亡くなってしまうという現実を目の前に見ているので、先進国に比べると受け入れられ易いと思う。
- ・ 高谷さんが海外で医療活動ができたのは、NGOを通じてであったから。
- ・ ロンドンでのロータリーからの支援：ロンドンに着いた時の最初の不安は自分の契約しているアパートにたどり着けるかという事でした。駅までロータリーの方が出迎えてくださり、不安なくスタート出来ました。必要なものを買うのにスーパーに連れて行って頂くなど、本当によく頂きました。特にカウンセラーの方のオフィスと私のアパートが近く、親身になってサポート頂きました。クラブにも伺いましたし、カウンセラーのお家に伺ってお食

事をさせていただくなど、本当によくして頂きました。

・昔は長崎大学に熱帯医学研究所だけしかなかったが、今は新宿の国際医療研究センターの2カ所だけですか：熱帯感染症を診療できる施設は国内に複数ありますが、症例自体が少ないので経験のあるところは限られていると思います。

修士論文のテーマにしたとの事ですが、一昨年代々木公園で発生したような事は今後気候変動によって増えてくるのでしょうか：日本にはデングを媒介出来る蚊がいますし、外国に行かれる方も外国からいらっしゃる方も沢山おられるので、起こりうる事です。今後も注視していく必要があると思います。

質疑応答以上

河本会長よりお礼の言葉：

高谷さんはロータリー財団から依頼を受けて、昨年12月3日のロータリー研究会で、約700人くらいの全国から参加されたガバナー、PDG, DGE, DGN, DGAの前で、今日と同じ話をされました。私は本当に誇らしかったです！ 高谷さんはまだまだお若く、これから益々研鑽を積まれて、将来は必ず国際舞台で活動される方と期待しています。今後のご発展を祈ります。



河本会長より高谷さんへお礼